





狭衣下切第四

日るとも心 契衆の神海夏想也 古述せれん
ありへし。さらば若くし 身ハ淨即位あるべき
なり也

淨發淨眼ハ 妙莊嚴王ハ惡王也
たりは二人の肉子と肉母の淨徳主人と 雲雷
音宿王花智此肉子と母とさとりとひつと父の
惡王は道引をもぐぬゆとして 神海徳及徳の
とくみをもぐぬゆれを父王ハ是觀也して 邪見
とひへし 佛不あり 清志く若くは 聖者と如
此の二の時ハ妙莊嚴王今の花徳并也 淨

夫人をこの心術を無住無著也淨慧淨眼

ハレの業と業上の女弁也

一舍利弗劫濁乱時衆生垢重慳貪嫉妬成就諸石

善根故諸佛以方便力於一佛乘分別說三千

方世界は六韋神八三宗三妻の法はる也

一院の由まへ 舟渡也

一つともととと 道尼君へ乃と女の由弁

一ひしふあふ 友引の舟道世にの之巻下終り

一つらり くらくひ教行の尼あつてハ推

一ともあつてくつらり 引き行の心おれ縁を山境

一ぢやうよさ女の由

一あを一柳交乃さうも流ひくちあを能ととも

一とん沙也家ののんさ一ある成かともともたさくら

一ととあつてさうくくあひ流り

一あつてん くらめは流作と阿私他人よはさり

一あのはを 法の家あかん物体とさ女のあがりめす也

一みくくの神人の祝いのものももあつてさ女

一乃由奇あはは世の縁起ハあがりめあつて也

一まよあつて 一水も也

一さあつてん 縁起のさうさ女さ女のすめりく

一あつてん 縁起

の我男と云ん 津波なるも及んれ安ん人
色ありし也

一 今昔のや ありしは 津波なるも及んれ安ん人
くしと云ん 津波なるも及んれ安ん人
もらりくものちたあひびく 津波なるも及んれ安ん人
くしと云ん 津波なるも及んれ安ん人
まはあひひつと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 花梅 ふうれきり 津波なるも及んれ安ん人
しと云ん 津波なるも及んれ安ん人
んちと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 津波なるも及んれ安ん人
んちと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 津波なるも及んれ安ん人
んちと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 津波なるも及んれ安ん人
んちと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 津波なるも及んれ安ん人
んちと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 津波なるも及んれ安ん人
んちと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 津波なるも及んれ安ん人
んちと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 津波なるも及んれ安ん人
んちと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 津波なるも及んれ安ん人
んちと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 津波なるも及んれ安ん人
んちと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 津波なるも及んれ安ん人
んちと云ん 津波なるも及んれ安ん人

一 下作 按察使六條の聲はあり終ふ
一 下作 かりれ奇 年は建治ととえはふあり也
一 ぬきそれりく 源氏乃きう也

一 かもぐ 慶のまめのう也
一 宰相のありさくらんゆはのくで内介一ゆえんこ
一 ぐくまの引奇 鳥羽の教乃榮りもあふべり
一 かく風目びーさくまの種

一 下作 ぬきそれりく ぬきそれりく 終ふる年
一 終りやせんも也
一 一 下作 梅をわておふの細け也
一 下作 花を咲あけるつらき梅

一 一 下作 ちんぐ也 娘君の母よへん
一 一 下作 娘君にもやうらとありし志あは

一 一 下作 のくれちり 一 下作 からんも也
一 一 下作 さえ 一 下作 ちんぐも也

一 一 下作 一 下作 奇乃ん也
一 一 下作 一 下作 一 下作 一 下作

一 一 下作 一 下作 一 下作 一 下作

一ウツリん 所遊

一ウツリん 所遊 女のウツリん 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

奇事抄

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

一ウツリん 所遊 志はめる心ある人し

奇事抄

〇十二

きんじきと さなむくをハ又邦人への所をいとおも
はしめ

一 おがしきと山 あいさむも也

一 ちりむじん音 ちりぬち

一 ちりぬち 赤い針の母の娘也

一 ちりぬち 父の娘もたはきと人あがり赤き

針意のちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

虎の一匹をちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

改刻の紙とちりぬちとちりぬちとちりぬちと

一 ちりぬち 赤宮をちりぬちとちりぬちとちりぬちと

さなぬち也

一 ちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

一 ちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

一 ちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

一 ちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

一 ちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

一 ちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

一 ちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

一 ちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

一 ちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

一 ちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちとちりぬちと

一等光 蔭の極位也十任十行十廻車十
地等もつてん妙光 是と刹教の四十二位と也
妙光ハ仙也

水の白波ある所あり 江もる紀今もるべし
源氏字活巻あり

一光なりあまろえ等 今夜あり也又江也新也
新也

一月もあまも 源氏又源也
一芥はし ありあり

一終りありあり 車小七車はしとありあり
ありあり八七車はし等ありありありありあり

一終りありあり 終りありありありありありあり

一終りありあり 終りありありありありありあり

一終りありあり 終りありありありありありあり

一終りありあり 終りありありありありありあり

一終りありあり 終りありありありありありあり

一終りありあり 終りありありありありありあり

一終りありあり 終りありありありありありあり

一 奇くもひん奇く くれあし 衣
一 奇くもひん奇く くれあし 衣
一 奇くもひん奇く くれあし 衣
一 奇くもひん奇く くれあし 衣

一 奇くもひん奇く くれあし 衣
一 奇くもひん奇く くれあし 衣
一 奇くもひん奇く くれあし 衣
一 奇くもひん奇く くれあし 衣

一 奇くもひん奇く くれあし 衣
一 奇くもひん奇く くれあし 衣
一 奇くもひん奇く くれあし 衣
一 奇くもひん奇く くれあし 衣

源氏源氏朱朱音音院院のの仍仍幸幸小小のの木木のの由由ららとと名名
乃乃由由りりととししててももももとと也也
法法ととししてて也也 乃乃のの也也 全全
多多ああららくくりり回回

はは物物終終ののににててもも源源氏氏夏夏にに渡渡橋橋乃乃西西京京也也
少少年年とと書書々々あありり、、少少あありりくく也也ととししててりり回回冊冊
とと全全部部也也んんああるるべべししららりりああららずず、、坂坂のの人人
ああららざるるべべしし

天正十九年三月九日

臨江舟
法眼紹巴

狭衣下紐第四終

斯斯ととこころろもも代代系系借借ちち西西三三條條道道遠遠延延
入入道道堯堯空空尊尊者者のの法法化化々々むむ精精撰撰るる
下下ののこころろ他他本本ををああららじじ換換合合すすららまま
展展轉轉書書寫寫ののああややままわわしし損損腐腐のの文文字字
又又前前後後のの錯錯亂亂ああららずず是是れれをを和和ささ
ままららずずととししててももかかららずず考考合合てて清清
ききままししめめりりままたた甲甲午午歲歲仲仲
夏夏日日東東京京黃黃臺臺山山釋釋野野切切臨臨叟叟誌誌々

年應之甲午歲子姑吉辰

為九通二条上二町目

三木氏親信梓行

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '辰', '子', '午', '甲', '應', '年']

